



火山性堆積物

場内北端の切土法面など原地形が残る部分で観察される。
場内の大部分では、沢による開析及び土工事のため削り取られている。
土工事で削り取られたものは、えん堤構築、覆土に用いられたと考えられる。

a : 火山灰主体
b : 軽石主体 透水性が高い
c : ローム (褐色火山灰)
基底部に灰白色の火山砂が介在。

凝灰角礫岩

表層の4~6mは風化帯。
褐色に変色し、軟質化。
拳大以上の礫は、概ね新鮮である。

拳大以下から直径1m以上までの礫と、細粒の基質からなり、硬く固結している。
一部に高角度の割れ目が認められるが、全体としては稀である。
割れ目が無い部分の透水性は低い。

含水を有する材が点在。

溶岩

上部は比較的硬質で、節理が発達する。
大部分は砂礫~礫岩質。容易に崩れる。
透水性は高いと予想される。

土砂
(主に十和田火山噴出物)



軽石堆積物 (切土法面中部)



凝灰角礫岩 (急崖の露頭、割れ目は少ない)

岩盤
(更新統・斗内層)



溶岩 (急崖下部、ラゲーン上の露頭、節理が発達する塊状溶岩)

図 4-12 調査地に分布する地質の模式柱状図